

長畝ふるさと通信

【2019年5月号】

■ 炎天下で田植え・・・雨降らず水不足心配



今年の田植えは昨年より5日遅く、5月7日から始めました。昨年は低温で活着が悪かったので、少しでも暖かくなってから苗を植えたいと・・・そんな計画でいたのですが、意に反して毎日晴天、連日の夏日で雨が降ったのはたったの2日でした。おかげで田植え前の苗はぐんぐんと成長し、



根っこもご覧の通り、苗箱の下から伸びだし下に敷いてある防草シートに絡みついて持ち上げるのにも大変なほどです。ただ、暖かすぎて成長が止まらず苗丈が伸びすぎるので、育苗ハウスを全開にして熱を逃がしてやるのですが、そうするとハウスの外側の列だけ風を直接受けてしまい、葉先が枯れ

てしまいました。

休みなしの田植え作業で、田植えをするオペレーターはもちろん、苗運搬や苗管理をする人たちも日焼けで顔は真っ黒、疲労の色も日に日に濃くなっていきました。

28日にはすべての田植えが終了しましたが、翌日からは大きく伸びた畦草との格闘が休みなく続くわけです。



■ こんなシーンも度々…



田んぼの進入路の勾配がきつすぎて田植機が田んぼから出られませんの図。前に一人乗りこんで体重をかけ脱出を試みますが、後輪がスリップして動かず、結局トラクターにワイヤーロープをかけ引き上げる始末。



田植え前の代かき作業も連日3台体制でフル稼働。田植えの3日前までには代かきを終えなければならないので、常に田植の進み具合を確認しながら、連日残業で何とか乗り切りました。

総力を結集して臨んだ田植え作業ですが、若手の台頭とともに年輩組の離脱も目立ち始めました。先日、外国人のワーキングホリデーを受け入れてほしいと相談に来た会社があったり、県から外国人労働者が必要かとのアンケート調査が来たり、農業界の人手不足は深刻なようです。近い将来、組合の田植え機やコンバインにも外国人労働者が乗っているかも…。

■ この花の名前は？

田植えが終わるころ、田んぼの周辺の水路には真っ白な可愛い花が一面を覆います。花には全く興味がないボク(ヒマワリくらいはわかる)ですが、調べてみました。「除虫菊」「フランス菊」「マーガレット」の候補が上がりましたが花を見ても違いがよくわかりません。葉の形状を見るとのこぎりのような長細い形をしているので「フランス菊」ではと思いますが、「除虫菊」の方が田んぼにはふさわしいので「除虫菊」にします。ちなみに「除虫菊」はキンチョーの蚊取り線香のもとだそうです。



また、「ヒメオドリコソウ」に変わって最近目立ってきたのが紫色の花で、茎が刈り払い機に巻き付いて草刈り作業の邪魔をするこいつ。調べてみると「ナヨクサフジ(弱草藤)」という外来種でした。ここにも外国の影が…



在来種(日本人)頑張り！